

職員による自己評価

A環境面

3単位で学年や障害特性で分けていることで支援がしやすくなっている。

単位によっては場所が狭いので、使用スペースを工夫していきたい。

B児童への支援内容

単位ごとに障害特性別に支援ができています。

コロナ予防対策を継続しながらも徐々に外出支援も実施できるようになった。

C関係機関との連携

支援学校などは特に情報共有を行っており、保護者にも都度共有するようにしている。

ケース会議や地域連絡会などにもできる限り参加し、他サービスなどとも情報共有している。

D保護者への説明責任・信頼関係

連絡帳をアプリで写真を使うことで、より明確に支援内容をお伝えできている。

まだ全員とはいかないが、対面での面談も実施できている。

E非常対応

半年に一回実施し、その様子は親御さんにもお伝えしている。

保護者による評価

A環境面

・はしゃぐ子供、静かに過ごしたい子供がいると思います。そのために別々で離れた部屋がもう少しあるといいと思う

B児童への支援内容

・プログラムが多彩にある

・コロナ禍の中でも行事などを工夫していただいていると思う

C事業所からの情報発信

・あまり時間は取れていませんが、日々の共有はしていただいている

・面談や助言支援の機会が年に数回あると、子供の状態がお互いに共有でき、支援の充実につながると思う

・いつも愚痴まで聞いて頂いている

・保護者会はあまり望んでいない

・保護者会はぜひ実施してほしい。

D非常対応

・マニュアルをアプリから見られるようにしてほしい

事業所内での分析

【共通点】

- ・ 行事や取り組みを評価していただけている。
- ・ 学校よりも楽しみにしている。
- ・ コロナ対策を講じながら外出支援の回数を増やすことができ、満足につながっている。

【相違点】

- ・ 支援室が狭いため、子供のニーズに応じた対応ができていない。
- ・ 面談は実施しているが、より回数を増やしてほしいという意見があった。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・ 豊富なレクリエーション、外出行事。
- ・ 障害特性に応じたクラス分け、療育プログラムの実施。
- ・ 身体を動かす取り組み。
- ・ アプリでの情報発信（毎日の写真配布など）

事業所の改善点

- ・ 子供達のニーズに応じたスペース分けを行なっていく。
- ・ 通常面談以外での家庭連携支援を実施検討していく。
- ・ 連絡帳以外のアプリの活用方法を模索していく。

事業所の改善への取り組み

スペースの取り方を気にされている方が多い印象なので、ニーズに応じたスペース分けをわかりやすく行なっていく。
ご家族に応じた家庭連携の実施。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

数年コロナ禍で外出支援をあまり実施できなかったが、徐々に落ち着いてきたことで今年度は少しづつ実施することができた。

やはり外出支援のニーズは高いことが認識できた。

家族会に関しては、望む方と望んでいない方が大きく分かれるため、今後も状況見ながら実施検討していく。

事業所名 アレッタ児童デイサービス弘明寺

担当者 丸山 彰彦